

三浦の戦争遺跡の紹介

① 水上特攻艇「震洋」のための防空壕

昨年12月10日（木）に、名向小学校5年生の有志4名が乗船体験をした際、太平洋戦争の際の水上特攻艇「震洋」の防空壕を海上から見学しました。



「震洋」の基地は、松輪周辺に多いのですが、小網代湾にもありましたが、私も初めて見ることができました。

ここは、海上からでなければ見られない場所で、子どもたちにとっては、大変貴重な体験になったと思います。



② 小型有翼潜航艇「海龍」の基地の跡

小パール隊の日高副理事長宅の敷地内には、戦時中の海軍の小型有翼潜水艇「海龍」の基地の跡である壕が複数残っています。（右の写真）現在は、日高さんの会社に、コンクリートの基盤ごと払い下げられているそうです。



①、②ともに戦時中の、三浦の地理的な重要性がわかる史跡です。

三浦の海に歓声 川崎市立上丸子小5年生が城ヶ島に



昨年12月11日（金）、川崎市立上丸子小学校の5年生120名が、城ヶ島の白秋碑前の砂浜で海の体験をしました。

講師は、観音崎自然博物館の山田和彦先生と息子の博和さんでした。寒い季節なので、残念ながら海に入ることはできませんでしたが、海岸で貝拾いを中心に活動しました。

子どもたちは、貝殻を拾うと、山田先生親子に名前を覚えてもらっていました。サザエやウチムラサキガイなどの貝殻以外に、小さいヒトデを発見した児童もいました。

この学校は多摩川に近くて、子どもたちは川に入る体験はしていたようですが、きれいな自然の海を見る機会はあまりないらしく、生き生きとしてうれしそうに活動に参加していました。



三浦の子どもたちには当たり前のように存在する海の風景も、都会の子どもたちにとっては、素晴らしいものなんですね。三浦の子どもたちに、三浦の自然の素晴らしさを認識してもらいたいという気持ちにあらためてなりました。



みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 882-1111（内線428）